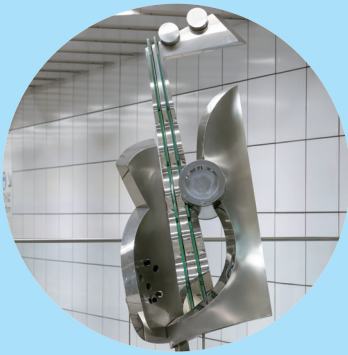




もっともっと！
あるいて。みつけて。
ふじさわ
パブリック
アート
さんぽ
散歩



目次

藤沢南部……4

弁財天と世界女性群像……5

孔雀彫刻（吉祥永駐）／石塔／
エドワード・S・モース記念碑……6

海の詩／雲の形……7

片瀬こま／大望の像……8

平和の像／自由の翼……9

東京 2020 大会・セーリング競技開催記念
モニュメント／
1964 年のオリンピック聖火台……10

日本ビーチバレー発祥の地記念碑／
皇太子殿下御成婚記念植樹の
モニュメント……11

五頭龍伝説より／潮風のたより……12

デミター（豊かな実りをもたらす女神）／
引地川緑地のモニュメント……13

藤沢駅周辺……14

核兵器廃絶平和祈念像（平和の母子像）／
貝／波……15

名誉市民 片山哲先生／翔……16

高田博厚の3作品（地・空・海）……17

待ちぼうけの石／まごころ……18

円舞／我が家のソクラテス／
愛と友情……19

めでたき富士……20

大気の白／みぎわ……21

平和の灯モニュメント／
平和モニュメント（鳩）……22

真心／ぶどうを持つ少女／
弥勒寺太郎……23

商店街を飾るモニュメント……24

藤沢聖苑のモニュメント／
QUIESCENT ELAN……25

辻堂

サザンセイル／ブロンズ像（2人の子供）……26

海鳴りの樹／渚／
ブロンズのモニュメント……27

駅シリーズ

湘南讃歌……28-29

湘南台アートスクエアの壁画-Viva Fujisawa……28-29

江ノ電の駅アート……30

インタビュー Eastside Transition……31

藤沢北部 1……32

シャツブラウスの娘／友情……33

大黒橋のモニュメント／
大庭台墓園のブロンズ像……34

春の詩／水・浮遊……35

二番橋公園のブロンズ像……36

自然／市制 50 周年記念足型モニュメント……37

光る風／駆ける太陽と共に／空の表情……38

コラム おどろき！ 修復BEFORE AFTER……39

橋シリーズ

引地川親水公園 天神橋 欄干の彫刻／
石川岡田橋 欄干の彫刻……40

道標／日の出橋 欄干の彫刻……41

藤沢北部 2……42

にっぽんの詩……43

湘南台公園のハニワたち……44

ブロンズ像の子供たち／ハーメルン……45

風のきらめき……46

コンポジション 交通と街……47

原谷公園のモニュメント／
茅山公園のモニュメント……48

コラム ピカピカプロジェクトって
どうやるの？……49

掲載作品データベース……50-51

MAP……52-55

あとがき……56

もっともっと！

あるいて。みつめて。 ふじさわパブリックアート散歩



“誰でも見られる場所に置かれた芸術作品”であるパブリックアートに親しんでいただくために、藤沢市は 2020 年に『あるいて。みつめて。ふじさわパブリックアート散歩』を刊行しました。

それから 5 年。市内の作品調査を続けた結果、刊行当時は不明だった作品情報が明らかになったり、未調査の作品が見つかったり、嬉しい出会いが重なりました。これらの内容を加えて、さらに充実させた冊子が、この『もっともっと！あるいて。みつめて。ふじさわパブリックアート散歩』です。

本冊子は、前回同様、市内を大きく 4 地域に分け、各地域の特徴をふまえながらパブリックアートを巡れるよう構成しています。また、作品の保守保全の観点から、修復や洗浄にまつわるコラムも掲載しました。

あまりに身近だからこそ見逃しがちなパブリックアートですが、じっくり眺めるといろいろな発見があります。例えば、パブリックアートがその場所を選んで置かれている意味や、作者の思いに想像をめぐらせたり、もっとシンプルに「この形、好きだなあ」「汚れている。きれいにしてあげたいな」と思ったりしながら、作品と向き合っているかがですか。おもしろい形をした作品も多いので、スケッチや写真撮影をしてみるのもいいですね。

まずはぜひ、この冊子を手にお出かけください！

（※新規掲載作品数：18 点、情報更新作品数：19 点）

・作品データは、作者、設置場所の順に記載しています（判明していない事項は記載なし）。
・目次ページで、作品名が判明しているものは作品名と表記しています。



① 弁財天と世界女性群像



弁財天をぐるりと囲み 美の競演



1964年の東京オリンピックで、江の島がヨット競技の開催地となったことを記念してつくられました。噴水池の中心には江の島ゆかりの弁財天、周りには東洋と西洋の古代と現代の女性を表す4体の像。5体が表すのはオリンピックの五輪です。

作者／加藤 顕清(かとう・けんせい 1894-1966)

江の島北緑地広場(江の島 1-1)

THE SOUTHERN PART OF FUJISAWA
藤沢南部



遊びどころ見どころ満載の海岸周辺、芸術鑑賞もお忘れなく。





鯛を抱えて逆さになったポーズは、海の中をイメージしています。片瀬漁港の整備記念に、海の事故がないようにとの祈りを込めて作られました。佐渡島出身の作者は子どものころいつも海に潜って元気に遊んでいたそう。故郷の両津大橋にも同じ像が設置されています。

⑤ うみ うた 海の詩

作者／親松 英治
(おやまつ・えいじ 1934-)
◎ 片瀬漁港市民交流広場
(片瀬海岸 2-20)



いい気分
ポカポカ日差し

⑥ くも かたち 雲の形

作者／山本 正道 (やまもと・まさみち 1941-)
◎ 小田急線片瀬江ノ島駅前、弁天橋上

江の島上空にもくもくと湧いた雲に、砂浜にごろりと寝そべる女性の姿を重ねて作られたのがこの像。まるで橋の真ん中でリラックスしているような、ユーモラスなフォルムに引きつけられます。

② くじゃくちょうこく きっしょうえいちゅう 孔雀彫刻 (吉祥永駐)



昆明市は、中華人民共和国雲南省の都市。1981年に藤沢市と友好都市提携を結び、2002年に同市からこの像が贈られました。雲南省では孔雀は吉祥のシンボル。平和への願いも込められています。

昆明市より寄贈
◎ 江の島サムエル・コッキング苑内
昆明広場 (江の島 2-3-28 内)

2002年に藤沢市と姉妹都市になった保寧市(大韓民国・忠清南道)から、2003年に姉妹都市提携を記念して寄贈されました。風光明媚な同市の海水浴場は、貝がらでできた砂浜が有名です。

保寧市より寄贈
◎ 江の島サムエル・コッキング苑内
保寧広場 (江の島 2-3-28 内)

③ せきとう 石塔



④ きねんひ エドワード・S・モース記念碑



大森貝塚の発掘で知られるアメリカの動物学者、モース。1877年に来日し、江の島の漁師小屋を借りてシャミセン貝を研究。親日家で、日本の動物学や考古学の発展に寄与しました。

作者／山本 正道
(やまもと・まさみち 1941-)
◎ 江の島北緑地広場 (江の島 1-1)



高く掲げた右の拳に、平和の象徴である鳩を乗せたたくましい男性の姿。戦争の悲惨と不幸を再び繰り返してはならないという悲願が込められています。筋肉を強調した造形とインパクトに満ちたたたずまいは、師匠の北村西望による長崎の「平和祈念像」とも重なります。

⑨ 平和の像

作者／難波 孫次郎

(なんば・まごじろう 1914-2010)

◎湘南海岸公園（鵠沼海岸 1-17-3）

⑩ 自由の翼

作者／熊坂 兌子

(くまさか・なおこ 1933-)

◎江の島 1-10



県立かながわ女性センターの開設（2015年移転）に合わせ、制作された作品。向かって右側は胸を張って風に向かって進む女性の姿を、左側は大きく広げた羽をイメージして作られています。

⑦ 片瀬こま

◎片瀬漁港市民交流広場（片瀬海岸 2-20）

「けんかこま」でも仲良く遊ぼう！



湘南地域で長く遊ばれてきた片瀬こま。本体はツバキ、心棒は漁船のオールに使われるカシで作られ、相手のこまを弾き飛ばす重さと硬さから、「けんかこま」とも呼ばれるそう。



ぼくらが支える地球の未来

地球を両手で支え持つ少年と少女の像。これからの世界を担うのは子どもたち、ということ象徴しているようです。彼らの頭上に降る木もれびのような、優しい未来が待たれます。

⑧ 大望の像

作者／般若 純一郎

(はんんにゃ・じゅんいちろう 1931-1989)

◎西浜公園（片瀬海岸 3-1-30）



⑬ 日本ビーチバレー発祥の地記念碑

作者／日比野 克彦（ひびの・かつひこ 1958-）

◎湘南海岸公園サーフビレッジ南側前庭（鵠沼海岸 1-17-3）



5つの立体がそれぞれかたどるのは、B・E・A・C・Hの文字。横倒しになったり、縦長く伸びたり、まるでビーチバレーの選手が砂浜でボールを追って飛び回っているようです。

⑭ 皇太子殿下御成婚記念植樹のモニュメント

◎鵠沼海岸 1-18



松林の中に突如現れる、太陽のようなモザイクのモニュメント。台座部に「皇太子殿下ご成婚記念植樹」、裏側に「昭和34年4月10日 神奈川県知事内山岩太郎書」と刻まれています。

⑪ 東京2020大会・セーリング競技開催記念モニュメント（右）

⑫ 1964年のオリンピック聖火台（左）

◎江の島ヨットハーバー（江の島 1-12-2）



あの感動がよみがえる…！

東京オリンピック開催に合わせて整備された江の島ヨットハーバーは、記念すべき日本初の競技用ヨットハーバー。上の聖火皿は、1964年大会で実際に使用されたものです（台座は後年に再現）。

江の島弁天橋の半ばにあったこの聖火台モニュメント。東京2020大会後に、現在の場所に移設されました。テラコッタ製の本体はセーリングの帆を、神奈川県真鶴町産の本小松石が使われている台座はセーリングの艇をイメージしています。





⑪ デミター (豊かな実りをもたらす女神)

作者/サル・シュワルツ (1912-2004)

長久保公園 (辻堂太平台 2-13-35) ※p39 に関連情報を掲載

長久保公園のシンボルともなっている作品。
デミターとは、ギリシャ神話に登場する、
穀物の栽培を人間に教えたとされる女神の
こと。高く伸びた中心部は、木の幹にも両
手を広げた人のようにも見えます。

羽を休める？
優雅なライン



⑫ 引地川緑地の モニュメント

引地川緑地 (辻堂太平台 12 付近)

握った指のような、ねじった
紙のような、はたまたクロワ
ッサンのような…。いったい
何の形？ 緑豊かな引地川緑
地を散策の際は、ぜひ探して
みてください。

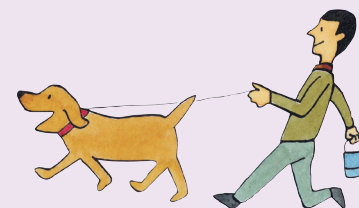


⑮ 五頭龍伝説より

作者/島谷 晃 (しまや・あきら 1943-2010)

片瀬しおさいセンター (片瀬 4-9-22)

藤沢生まれの作者が壁画
のモチーフにしたのは、
地元江の島に伝わる五つ
の頭を持った龍と、美し
い天女のお話。淡く幻想
的な色づかいで、龍もど
こか優しげに見えます。



大きな虹とやさしい目を
した鳥が片瀬市民センタ
ーでみなさんをお迎え。
作者はふくろうをはじめ
さまざまな鳥を、独特な
世界観と多様な技法で描
き続けました。

⑯ 潮風のたより

作者/島谷 晃

片瀬市民センター (片瀬 3-9-6)

①9 核兵器廃絶平和祈念像(平和の母子像)



作者／熊坂 兎子(くまさか・なおこ 1933-)

●奥田公園前広場(鵜沼東7)

見る人を包み込むようにやさしいフォルムと大理石の存在感が印象的な母子像。イタリアのピエトラサンタで制作後、船で日本に運ばれました。台座の16枚のレリーフパネルはp13《デミター》の作者で夫のサール・シュワルツ作。世界地図や子どもたちなど、多彩なモチーフをじっくり鑑賞してみてください。

②0 貝

作者／熊坂 兎子

●奥田公園前広場(鵜沼東7)

作者のふるさとへの思いが込められた2作品。藤沢の海にまつわるモチーフを抽象化して表現しています。



②1 波

作者／熊坂 兎子

●藤沢市民会館中庭(鵜沼東8-1)

AROUND
FUJISAWA STATION AND TSUJIDO
藤沢駅周辺～辻堂

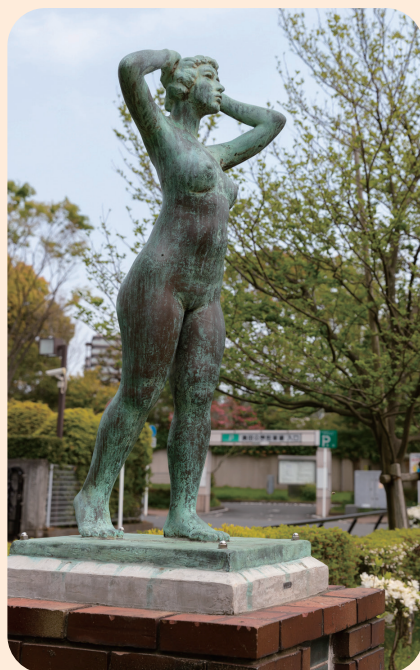


た か た ひ ろ あ つ さ く ひ ん
高田博厚の3作品



②4 ち 地

📍 JR藤沢駅南口ペDESTリアンデッキ入口



②5 そら 空

📍 奥田公園前広場（鵠沼東7-1）



②6 うみ 海

📍 藤沢115



め い よ し み ん か た や ま て つ せ ん せ い
②② 名誉市民 片山哲先生

作者／菅沼 五郎

（すがぬま・ごろう 1905-1999）

📍 藤沢市民会館前（鵠沼東8-1）

文人宰相といわれた片山哲（1887-1978）は、1947年に内閣総理大臣を務めました。1924年に片瀬に居を構え50年以上暮らし、藤沢市の名誉市民第一号となりました。

藤沢の成長を見つめ続けて半世紀

軽やかに舞うこの姿を見て！

音楽や演劇やダンスなど、さまざまな文化芸術の発信拠点である藤沢市民会館。そんな場所にふさわしいモチーフとして作者が選んだ華麗なバレリーナ。芸術の世界へみなさんを誘います。

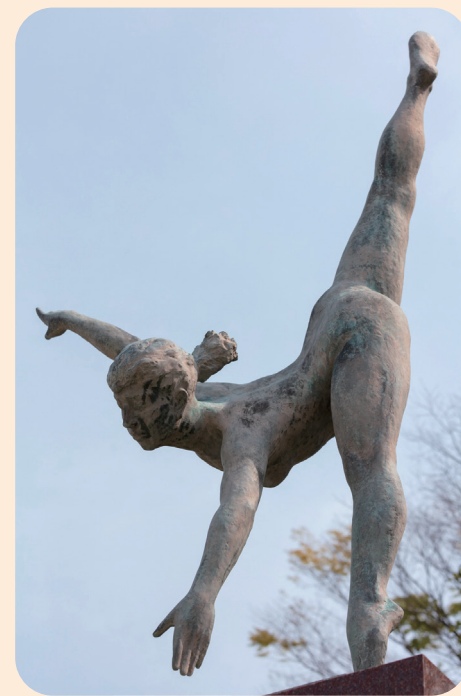


②③ しょう 翔

作者／親松 英治

（おやまつ・えいじ 1934-）

📍 藤沢市民会館前（鵠沼東8-1）





②9 円舞

作者／小峰 貴芳（こみね・たかよし 1950-）

◆ 秩父宮記念体育館外壁（鵠沼東 8-2）

古くからヨーロッパで建物に使われた鉄の加工技法が、鍛鉄です。真っ赤に熱した鉄をたたいて成形し、曲線などを作っていきます。じつはベンチとしての役割も。壁を縦横に走る優雅なうねりを間近でご覧ください。



③1 愛と友情

保寧市より寄贈

◆ 藤沢市役所本庁舎南側庭（朝日町 1-1）



③0 我が家のソクラテス

作者／葉山 賀行（くわやま・がこう 1948-）

◆ 藤沢市役所本庁舎 1 階（朝日町 1-1）

楠で彫られたこの像は、作者が2年半ほど共に暮らした元盲導犬のアイリスがモデル。とても賢く、モデルも大人しく務めたのだとか。こんな風につぶらな瞳でご主人を見つめていたのでしょか。

姉妹都市提携5周年を記念し、保寧市から贈られたもので、山と海そして豊かな漁場が表現されています。中央に位置する新芽の花びらは、両市の友情が新しく芽生える姿と、未来に続く友好を深めることを表しています。

美術運動「もの派」をリードした作者によるユニークな作品。大切な誰かを待って待つ待ち続け、とうとう石に……。残った体の一部が、何よりも雄弁にその心を物語っているように見えませんか？



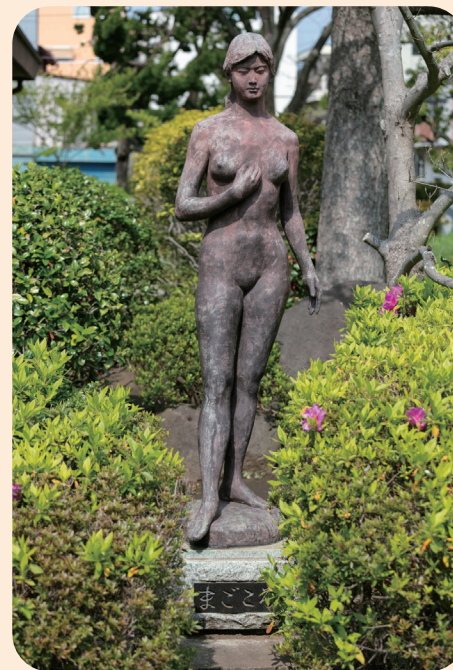
②7 待ちぼうけの石

作者／関根 伸夫

（せきね・のおお 1942-2019）

◆ 奥田三角公園（鵠沼東 2）

樹々の間にたたずむスラリとした女性像、胸の中心に手をあて、真摯な表情で佇む姿はタイトルの「まごころ」そのもの。一緒に旧近藤邸（遠藤新設計）の見学もいかが。



②8 まごころ

作者／陶山 定人

（すやま・さだと 1926-2009）

◆ 藤沢市民会館前（鵠沼東 8-1）

③③ 大気^{たいき}の白^{うす}

作者／前田 耕成

(まえだ・こうせい 1949-)

◎ 藤沢市役所分庁舎前 (朝日町 1-1)

彫刻^{ちようこく}から音^{おと}を、想像^{そうぞう}してみる

「藤沢市の様々な日常の音、あるいは市民の声を白状のフォルムで集める装置でもある」とは作者の言葉。何やら、真ん中に穴が開いていますね。耳を近づけてみましょう。あなたには何が聞こえますか？



波が打ち寄せる濡れた砂地のことを「みぎわ」といいます。女性には裸足でみぎわに佇み、遠い沖を見つめているのでしょうか。組んだ腕、憂いある表情が語るものとは…？

③④ みぎわ

作者／陶山 定人

(すやま・さだと 1926-2009)

◎ 藤沢市役所分庁舎前 (朝日町 1-1)

③② めでたき富士^{ふじ}



作者／片岡 球子(かたおか・たまこ 1905-2008)

※造形はルイ・フランセン、製作は現代壁画研究所

(現在のクレーレ熱海ゆがわら工房の前身)

◎ 藤沢市役所分庁舎 1 階 (朝日町 1-1)



作者が描いた原画の力強さと獨創性が、立体造形と組み合わせることでもチーフ一つにまで息が吹き込まれたかのよう。藤沢市の名誉市民でもある作者は1960年代半ばから富士山シリーズに着手し、様々なバージョンを残しました。



③⑧ ぶどうを持つ少女^{も しょうじょ}

作者／細野 稔人（ほその・としひと 1932-）

◆ 藤沢市民病院内（藤沢 2-6-1）



手にぶどうの房を持ち、小首をかしげたあどけない姿が見る人の気持ちを癒してくれそうです。

藤沢市民病院前の茂みにひっそりと設置された少女の像。大切な人のお見舞いに来たのでしょうか。帽子を両手に持ち、少し緊張した面持ちが表れているよう。



③⑦ 真心^{まごころ}

作者／陶山 定人

（すやま・さだと 1926-2009）

◆ 藤沢市民病院前庭（藤沢 2-6-1）



「バンザイ！」と、元気いっぱい姿の公園で遊ぶ子どもたちを見てうれしそう。同じ像がもうひとつ、この冊子のどこかにありますよ。

③⑨ 弥勒寺太郎^{みろくじたろう}

◆ 弥勒寺第二公園（弥勒寺 1-17）

③⑤ 平和の灯モニュメント^{へいわ ひ}

◆ 藤沢市役所分庁舎前（朝日町 1-1）



広島平和記念公園の「平和の灯」から採火した灯がともっています。モニュメントのデザインは、市民公募によるものです。

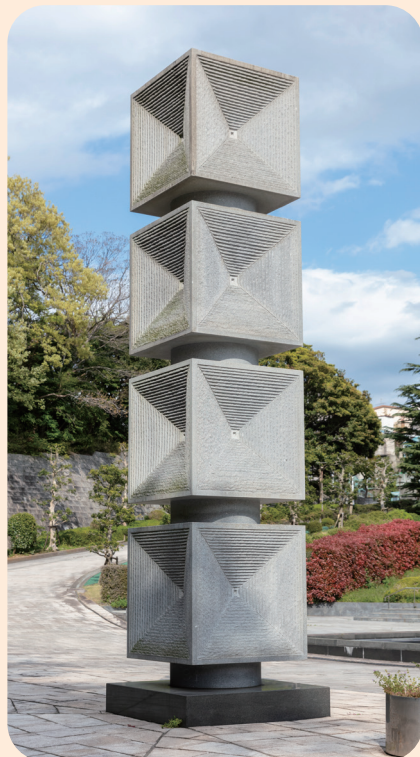


ハトがもたらす平和をいつまでも…

ほぼ全世界に生息するといわれるハト。世界中のだれもが平和に暮らせるようにとの願いを込めて、多くの人が行き交う広場に設置されています。

③⑥ 平和モニュメント^{へいわ}（鳩）^{はと}

◆ JR藤沢駅北口サンパール広場内（藤沢 555）



④6 藤沢聖苑のモニュメント

作者/新妻 實(にいづま・みのる 1930-1998)

藤沢聖苑(大鰐 1251)

石の質感や量感を生かした抽象彫刻で知られる作家の作品。作品に刻まれたサインから、昭和40年代からシリーズで制作した《眼の城》の一つと考えられます。



藤沢駅から遊行寺へ向かう通りに立っているこの作品は、同寺の鐘をモチーフに作られました。quiescentは英語で沈着・静止、elanは鋭気・飛翔・情熱の意味。作者は反対の意味を結び付けることで、将来への躍進を表現しました。

④7 QUIESCENT ELAN

作者/山本 一樹(やまもと・かずき 1957-)

遊行通り北入口(藤沢 41)

しょうてんがい かざ 商店街を飾るモニュメント

藤沢駅北口の商店街サム・ジュ・モールの整備計画に伴い、設置された作品群です。作者は、藤沢市の自然や海を5つのモニュメントと1つのブロンズ彫刻で表現。工夫を凝らしたいろいろな形を探しながら街歩きを楽しんでください。



④3 サムジュモールの樹



④4 サムジュモールの太陽



④5 海の形

④0 作者/児玉 慎憲(こだま・しんけん 1950-)

④1 作者/児玉 もえみ(こだま・もえみ 1951-)

④2~④5 作者/児玉 慎憲

サム・ジュ・モール

(藤沢駅北口銀座通り交差点から南仲通り交差点の間)



④1 海を望む オーケアニデス

ギリシャ神話の、
海流を司る水の神がモチーフ

④0 うみゆもの 海行く物



④2 サムジュモールの波

51 なぎさ 渚

作者／熊谷 喜美子
(くまがい きみこ 1948-)
◎ 辻堂砂場公園 (辻堂 3-20)



日展で活躍した作家によるブロンズ彫刻。潮風に帽子を押さえる女性の姿が、夏の海を感じさせます。

50 うみな き 海鳴りの樹

作者／平野 杏子
(ひらの きょうこ 1930-)
◎ 辻堂 1-14-1



伊勢原市出身の作者は、平塚を拠点に、長きにわたる創作活動を行ってきました。湘南の海を眺め、波の音を聞きながらイメージした自作の詩に着想を得た作品です。台座に刻まれた詩にも注目。



立ち上がって二つに分かれ、また一点で触れ合う造形が印象的なモニュメント。この形が意味するのは、ヨットのセイルか、水底にゆらめく植物か、もしくは遠い未来の生物か…?

52 ブロンズのモニュメント

◎ 辻堂 2-9-20

48 サザンセイル



◎ 辻堂海浜公園海の広場 (辻堂西海岸 3-2)

湘南の海をイメージしたという、二つのモニュメント。赤と青の帆をかかげた船が、波にゆらゆら揺れているよう。辻堂海浜公園海の広場のシンボルです。

49 ぞう ふたり 像 (2人の子ども)



あっちとこっちを向いた二人、いったいどうしたのかしら?

◎ 辻堂高砂東公園 (辻堂 5-3)



JR 藤沢駅に降り立った人々を迎え入れるように設置されたレリーフには、海辺の様子やヨット、花火など、湘南の風物が盛りだくさん。図柄の基になったのは、古代バビロニアの大壁画だそう。ベルギー生まれの作者は、カトリック教会の宣教師として来日し、日本文化に興味を持ちました。のちに日本の焼き物を学び、陶板レリーフやステンドグラスなどさまざまなパブリックアート作品を残しています。



しょうなん
湘南の夏の喧騒を
レリーフに
とじ込めて…

えき 駅シリーズ (壁画)

広い駅の空間を利用した
ダイナミックな作品を見に行こう！

⑤③ しょうなんさんか 湘南讃歌

作者／ルイ・フランセン (1928-2010)

※製作は現代壁画研究所 (現在のクレーレ熱海ゆがわら工房の前身)

📍JR藤沢駅改札外コンコース正面 (藤沢 75)



⑤④ しょうなんだい 湘南台アートスクエアの壁画 へきが ビバ フジサワ -Viva Fujisawa-

作者／廣田 雷風 (ひろた・らいふ 1947-)

📍小田急線湘南台駅地下広場 (湘南台 2-15)



湘南台の駅地下を人々が集う空間に変えるプロジェクトには、多くの人がかかりました。そのため、制作開始までに緊張とプレッシャーで体調を崩すほどだった作者。いざ画面下部のピアノの鍵盤を描き始めると「なんて楽しいんだろう！」と感じ、あらゆるモチーフを手の動くままに描き進めることができたそう。音と色彩が弾けるような画面から、制作の喜びが見る側にも伝わってきます。

みるひと
心の中
音楽が始まる♪





interview Eastside Transition

(写真左から、野崎良太さん、乙部遊さん)

電車に乗る人降りる人の足を思わず止める、インパクトとユーモアに満ちた「江ノ電の駅アート」が江ノ電の6駅に登場したのは2023年の春。制作を担当したEastside Transitionは、藤沢出身の乙部遊さんと野崎良太さんによるアート・ユニットです。

江ノ電から駅アートのオファーを受けた当初は1年にひと駅ペースでの制作スケジュールだったところ、急遽「江の島国際芸術祭」に参加することになり、およそ3か月の短期間で一気に6駅を仕上げることに。「江ノ電さんは、基本的には駅のどこに何を描いてもよいと言ってくれました。本当は陸橋や線路にも描きたかったけどさすがに危なくて断念(笑)。タイトなスケジュールでも中途半端にはやりたくなかった。そこで、『駅にアートがある』ではなく、『駅全体をアートで楽しむ』ことを目指しました」と、乙部さん。

自らの海外経験もふまえて、一駅ひと駅に個性のある外国の駅を参考に、各駅のメインテーマ決めに力を入れました。そして見る人に親しみを持ってもらうため、江ノ電沿線各所の特徴を作品に落とし込むべく、綿密なリサーチを行ったうえでプランを構想。石上駅などにみられる浮世絵のモチーフは、藤沢市藤澤浮世絵館に通って資料を調べたのだとか。

制作はもっぱら江ノ電の終電から始発までの夜間。明け方には塗料が乾いていないと乗降客に迷惑が掛かるので、人の通るところは早めに塗っていきます。「夜型の乙部

に比べ、朝型の僕には大層きつく、まるでゾンビ状態でした(笑)」と野崎さん。長い駅舎、高い天井に描くのも一苦勞で、高所恐怖症の野崎さんにはこれまたきつかったそう。また、藤沢駅には雨漏りする箇所があり、描いたばかりの絵が流れてしまうハプニングも。作業期間中、乙部さんは2回も倒れたそうです。

そんな二人を勇気づけたのは、制作を見守ってくれた周辺のみなさん。乗降客のいる時間に描いていると、励ましの声をかけてくれたのは特に地元に残り年配の方々でした。ハスの花やクグイなど、地元ゆかりのモチーフについて話に花が咲き、「昔はこうだったよ」と教わることも。制作前には、駅アートを見る層があまりにも不特定多数(地元住民、旅行者、学生、お年寄り等々)であることに一抹の不安もあったのですが、二人が制作に向かう姿に周囲の関心は自然と引き寄せられたようです。

「パブリックアートは、毎日見る人たちにいかに楽しんでもらうか、アーティスト(作者)とオーディエンス(鑑賞者)の距離をいかに縮めるかを考えて制作しています。派手な評価を得ることよりも、まちに溶け込む作品を作れたら」と二人。

ギャラリーを構える二宮町をはじめ、地元密着でアートプロジェクトを進めるEastside Transition。周囲を巻き込んで笑顔に変える、パブリックアートの新たな可能性を提示してくれました。

⑤⑤ 江ノ電の駅アート

「わくわく、はっけん、ぼうけん、えのでん」をコンセプトに、6つの駅がアートで生まれ変わりました。地域ゆかりのモチーフや随所に凝らした工夫で、見る人の心をわづかみ!



江ノ島駅



藤沢駅



湘南海岸公園駅



石上駅



柳小路駅



鵜沼駅



作者/Eastside Transition
📍 江ノ電各駅



⑤⑥ シャツブラウスの娘

むすめ

作者／佐藤 忠良

(さとう・ちゅうりょう 1912-2011)

◎秋葉台公園こもれび広場(遠藤 2000-1)

シャツの大胆な着こなしや質感はもちろん、腰に手をあて足をクロスさせた全身の絶妙なバランスが特徴的な女性像。絵本『おおきなかぶ』の挿絵でも知られる作者は、日常生活の中で一瞬だけ見える「人間の美」を追求した作品を多く残しています。

⑤⑦ 友情

ゆうじょう

作者／安田 周三郎

(やすだ・しゅうざぶろう 1906-1981)

◎藤沢市少年の森(打戻 2345)

フォークダンスを踊りながら見つめあう少年と少女を結ぶ「友情」。まるで恋人同士のようにも見えますね。かつて設置されていた藤沢青少年会館から、藤沢市少年の森の開園に際し移設されました。県立青少年センター(横浜市)にも同じ作品があります。



THE NORTHERN PART OF FUJISAWA 藤沢北部 1



⑥0 はる うた 春の詩

作者／葉山 賀行

(くわやま・がこう 1948-)

◎ 湘南大庭市民センター入口前
(大庭 5406-1)

制作にあたり、設置場所を訪れた作者が思いついたのは、市民を迎える施設にふさわしく、アプローチを挟んで作品を向かい合わせること。鳥とたわむれる2体の少女像は、その名の通りさわやかな春のイメージです。



⑥1 みず ふゆう 水・浮遊

作者／池田 徹 (いけだ・とおる 1951-)

◎ 湘南とうきゅう西側出口 (遠藤 698-10)

大庭の大地と相模湾の原風景から、人々が集い賑う場を願って構想したと作者。印象的な球と半球には、ミクロからマクロまで宇宙に存在するさまざまな球体―細胞核、地球を覆う水の分子構造、地球とその断面、物質の循環の風景などがダイナミックに表現されています。

⑤8 だいこくばし 大黒橋のモニュメント

◎ 大黒橋小公園 (遠藤 5845-6)

小出川の流れを模したような、動きのある造形が印象的。緑豊かで牧歌的な風景の中できらりと、ひとときわ異彩を放っています。



川の流れて、
水面にきらめく陽光



広い墓園の一角、木陰にある彫刻。碑には、平安時代の歌謡集『梁塵秘抄』から、童心を詠んだ有名な一節が刻まれています。

⑤9 おおばだいぼえん 大庭台墓園の ブロンズ像

◎ 大庭台墓園 (大庭 3782)

遊びをせんとや生まれけむ

⑥⑤ しぜん 自然

作者／熊坂 兎子（くまさか・なおこ 1933-）

◎大庭城址公園（大庭 5230）



《核兵器廃絶平和祈念像》（p15）と通じる
ほのぼのとした雰囲気作品。城址公園に遊
びに来たお母さんと赤ちゃんが、緑の中の
んびり休んでいるかのよう。

⑥⑥ しせい しゅうねんきねんあしがた 市制 50 周年記念足型モニュメント

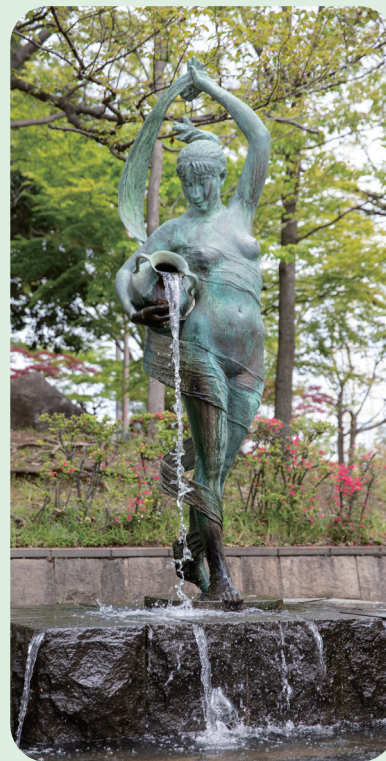
◎大庭城址公園（大庭 5230）

藤沢市制50周年を記念し、市民から募集した足
形が刻まれたタイル。ずらりと並べると、大き
な大きな足の裏の形に。



にばんがまえこうえん 二番構公園のブロンズ像

◎二番構公園（大庭 5528）



⑥③ みずがめ かか じょせいぞう 水瓶を抱えた女性像

作者／山岸 伸一（やまぎし・しんいち 1934-2012）

水源を想起させる水瓶を持った女性像
は、神話の女神や江の島ゆかりの弁財
天などいくつかのイメージを重ねて作
られました。天衣の造形や水の流れ落
ち方にも配慮がされた、量感がありな
がらも軽やかなたたずまいです。



⑥② にん じょせいぞう 3人の女性像

作者／黒川 弘毅（原画）（くろかわ・ひろたけ 1952-）、
山崎 豊三（塑像）（やまざき・とよみ 1955-）

公園の整備に際し、女
性像を求められた作者
は、広場のある公園に
合うよう躍動的なモダ
ンダンスをベースに原
画を制作。それぞれ異
なる動きの3体を、統
一感が出るように配置
しています。

⑥④ ふたり こ 2人の子ども



水辺で遊ぶ二人。左の像と同じ
作品がこの冊子の中にあるので、
見つけてみてくださいね。

おどろき！ 修復 BEFORE AFTER

修復作業：有限会社ブロンズスタジオ

藤沢市では、経年や自然環境の変化によって汚れや傷みが目立つパブリックアートの修復を、専門家の手で行っています。2022 年、2023 年に修復した作品はこちら。きれいになると、出来たばかりの頃のように、道行く人の目に再び留まります。

修復例 1：《デミター（豊かな実りをもたらす女神）》※p13 参照

もともとさびにくいといわれるステンレス製の作品が、環境などさまざまな原因により、さびだらけに。



①修復前 なんとなく全体に黒ずんだ感じ。汚れのほか、コケも散見。



②作業中 よく洗浄し、さび取りの後、やすり等で再研磨します。



③修復後 夏の高温にも対応できるワックスで表面を保護。



④錆びたステンレス（部分拡大）↓



⑤きれいになったステンレス（部分拡大）がんこなさびが取れてピカピカ！

修復例 2：《駆ける太陽と共に》※p38 参照

石の中でも密度が比較的粗く、劣化も早いとされる大理石。制作からおよそ 40 年が経過し、黒カビや亀裂が生じていました。



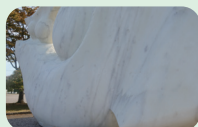
①修復前 大理石に合わない透明樹脂を塗布された部分が黄色くなっていたり、過去の酸性雨等の影響で一部溶けてしまった箇所も。



②作業中 洗浄に加え、溶剤等で樹脂を拭き取り、薬品やヘラ等でカビを落とします。



③修復後 よく洗って薬剤や水分を飛ばし、亀裂箇所（がんしんざい）に浸水剤、全体に撥水剤を塗布。



④汚れた大理石（部分拡大）↓

⑤きれいになった大理石（部分拡大）汚れが落ちてツルツル！

⑥8 駆ける太陽と共に

作者／熊坂 兎子（くまさか・なおこ 1933-）

◎遠藤公園（遠藤 639-2）

※p39 に関連情報を掲載



「人間にとって大きな存在である太陽、自然、地球とともに生きる」というコンセプトで作られた作品。その力強さとしなやかさは、現代人へのメッセージとも思われます。

⑥7 ひか 光る風

◎大庭丸山公園（大庭 5526-1）



シンプルながら、存在感たっぷりの石彫作品。正面に立つと、風が左から右へと吹き抜けていく錯覚を感じそうです。

⑥9 そら ひょうじょう 空の表情

◎北永山公園（遠藤 742）



太陽と雲のレリーフが施された石彫作品。どんな天気の日も、公園を訪れる人を正面で迎えてくれます。

欄干にとまるクジャクバトの姿に心がなごみます。作者は自分の人生と重ね合わせて、ハトやカラスなどをモチーフとした《道標》シリーズを晩年まで作り続けました。



作者／柳原 義達（やなぎはら・よしだつ 1910-2004）

◎ 作橋（辻堂太平台 1-17 付近）



73 ひ でばし らんかん ちょうこく
日の出橋 欄干の彫刻

◎ 日の出橋（鵠沼海岸 5-11 付近）

72 どうひょう
道標

水辺にゆかりのある鳥の一種、チドリ。かつては引地川の周辺にも多く生息していたそう。羽をいっぱい広げて羽ばたく姿が健気ですね。

はし 橋シリーズ

引地川にかかる橋をにぎやかに彩る、
さまざまな生き物たちをご紹介します。



「かたや、カエル丸く。こなた、カエル山く。まったなし！」という行司の声が聞こえそう。欄干をフル活用し、相撲の流れや基本動作が表現されています。カエルたちの熱戦をご覧ください！



70 ひきじがわしんすいこうえん
引地川親水公園
天神橋 欄干の彫刻

◎ 引地川親水公園天神橋（大庭 6510）

いきものだらけ

こちらの橋を守るのは、なんとも巨大な金色のカタツムリ。首をもたげて川面を覗いているかのようです。ちなみにカタツムリは昆虫ではなく殻をもった貝の仲間。



71 いしかわおかだばし らんかん ちょうこく
石川岡田橋 欄干の彫刻

◎ 石川岡田橋（天神町 2 と石川 2 の間）

空の両側から風神雷神、富士山のふもとには祭りの情景、そこに大人も子どもも集い、この上ないにぎやかさ！ 今にも祭りばやしや歓声が聞こえてきそうな、楽しさあふれるレリーフです。作者は民話や神話をモチーフとした作品を多く手がけました。

集^もって、祝^{いわ}って、今^{きょう}日も元^{げん}気^き！

⑦4 にっぽんの詩^{うた}

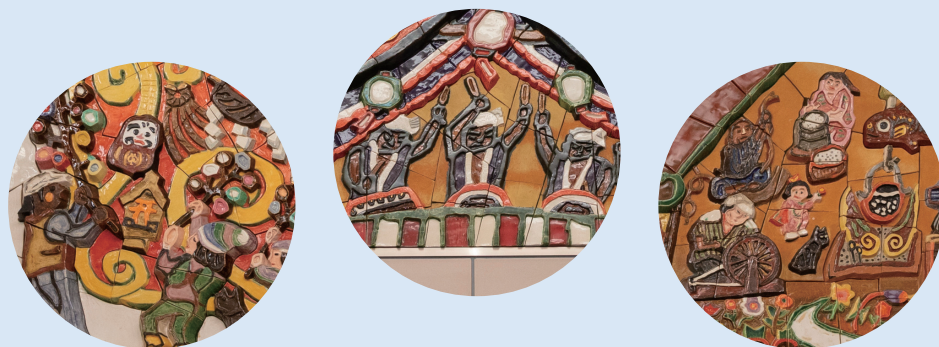
作者／田澤 茂（原画）

（たざわ・しげる 1925-2014）

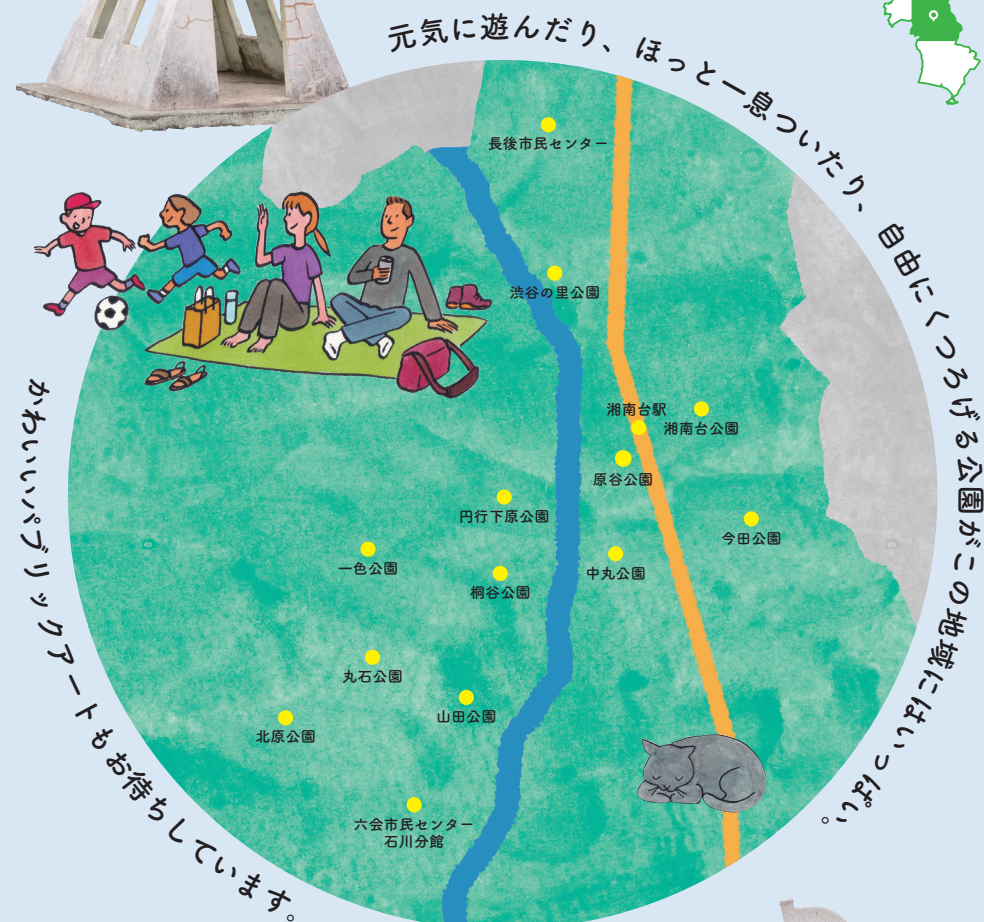
※製作は現代壁画研究所

（現在のクレーレ熱海ゆがわら工房の前身）

📍長後市民センター（長後513）



THE NORTHERN PART OF FUJISAWA 藤沢北部 2



ブロンズ像の子どもたち

藤沢市の都市計画事業にともない、たくさんの公園が作られた際に設置された数々のブロンズ像の子どもたち。遊んだり、本を読んだり。それぞれのポーズを繋いでいくと物語が生まれそうな気がしませんか？



⑧2 水あそび



⑧3 しゃぼん玉

⑦6 〓 渋谷の里公園（下土棚 1109）

⑦7 〓 六会市民センター-石川分館（石川 1-1-22）

⑦8 〓 丸石公園（石川 5-13）

⑦9 〓 桐谷公園（円行 1-4）

⑧0 〓 一色公園（石川 6-12）

⑧1 〓 円行下原公園（円行 2-15）

⑧2 〓 山田公園（石川 2-24）

⑧3 〓 北原公園（遠藤 2006-15）

⑧4 〓 今田公園（湘南台 7-41）

⑧5 〓 中丸公園（湘南台 3-28）

⑦7 くつろぎ



⑦6 子どもとウサギ



⑧0 姉弟



⑦8 花のかんむり



⑦9 昼さがり



笛の音でネズミを退治したのに対価が支払われず、怒って子どもたちを連れ去った『ハーメルンの笛吹き男』。この少年像は、伝承の不穏な気配は感じさせない愛らしさです。

⑧4 ⑧5 ハーメルン

⑦5 湘南台公園のハニワたち

〓 湘南台公園（湘南台 7-16）

3世紀後半から6世紀ごろに作られた土製の埴輪は、古墳にならべる副葬品として使われました。現代のハニワたちは、今日も元気に遊ぶ子どもたちを眺めて何を思うのやら。



家



武人



巫女

なに
あそ
び
して
遊ぶ？



男子



動物



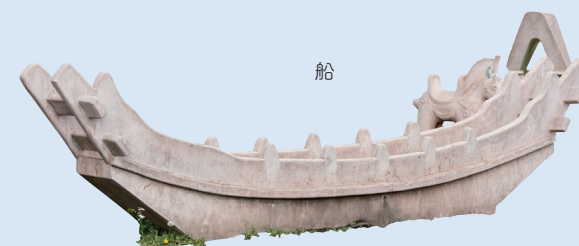
女子



動物



馬型



船

ごきげん
いかが？



横浜市営地下鉄ブルーラインの戸塚駅・湘南台駅間開業に伴い設置。直線と曲線を組み合わせた印象的な造形は、まちがリズムカルに躍動する様子にも見えます

87 コンポジション 交通と街

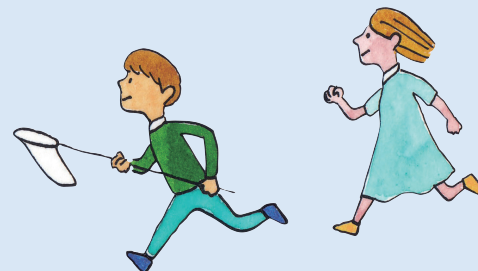
作者／望月 直登（もちづき・なおと 1949-）
※製作はクレーレ熱海ゆがわら工房
📍 横浜市営地下鉄ブルーライン湘南台駅改札内コンコース（湘南台1-43-13）

86 風のきらめき

ヨットの帆と風をイメージしたこの monumento は、風を受けるとらせん状のステレスパイプがゆっくりと回転し、波間の光のようにキラキラと輝きを放ちます。下部には波を模した御影石も。湘南台の未来への希望を込めて作られました。



作者／佐々木 実（ささき・みのる 1945-）
📍 小田急線湘南台駅東口ロータリー（湘南台1）



ひかり
風と光の
まちす
街に住む

ピカピカプロジェクトってどうやるの？

パブリックアートをさらに深くみなさんに知ってもらうために、藤沢市が行っている「まちの彫刻ピカピカプロジェクト」。パブリックアートの素材は、ブロンズや大理石など多種多様。それぞれにふさわしいメンテナンスの方法を専門家に教わりながら、市民の方々と近隣の学校と一緒に作品を磨きます。時には作者をゲストに迎えて制作のエピソードをお聞きしたり、アートスペースの学芸員が作品解説をしたりしながら、作品への関心を深めています。

1. 道具類

◎ブラシ各種…金属性でないものを使います。いろいろなサイズがあると役立ちます。

◎洗剤…自然にやさしい洗剤を選んでいきます。

◎バケツ…洗剤を薄めたり、作品に水をかけたりするときに使います。

◎ウエス…洗い終えた作品を拭いて乾かすためのものです。そのほか、洗浄に使うホースやシャワーノズル、乾燥用のブロワー、手を守るためのビニール手袋などもあれば便利！



2. 洗い方

①まずは水洗いからスタート。ホコリや土汚れなどを落とします。

②次に、洗剤とブラシを使ってやさしく磨きます。

③細かい部分まで磨けたら、水で洗い流します。きれいになるまで②、③を繰り返します。

④よく乾かして、ウエスで拭き上げたら完成です。

※ブロンズ像は、④の後でワックスをかける場合があります。

このプロジェクトでこれまでにピカピカにしてきた作品はこちら

2019年《核兵器廃絶平和祈念像》《弁財天と世界女性群像》

2021年《名誉市民 片山哲先生》《1964年のオリンピック聖火台》

《東京2020大会・セーリング競技開催記念モニュメント》

2022年《春の詩》《待ちぼうけの石》

2023年《友情》《まごころ》《貝》

2024年《自然》



画像は左から、《待ちぼうけの石》《友情》《貝》のそれぞれ作業時の様子

定期的に洗うだけでも、作品の状態をよりよく保つことができます。これからも市内のあちらこちらで「まちの彫刻ピカピカプロジェクト」を実施予定です。見かけたら、ぜひご参加くださいね！



中央に穴の開いた、不思議な形のモニュメント。のぞくと何が見えるかな？

88 原谷公園のモニュメント

はらたにこうえん

原谷公園（湘南台 2-26-14）

かつては茅が生い茂る丘陵地だったこの地域。地球環境年（初の環境サミットが開催された平成元年）にちなみ、子どもたちの健康と幸せを願って作られました。



89 茅山公園のモニュメント

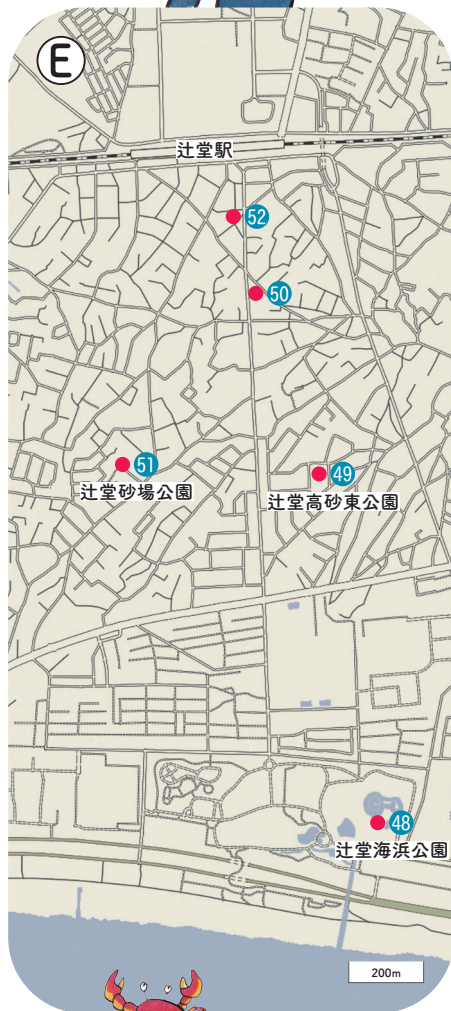
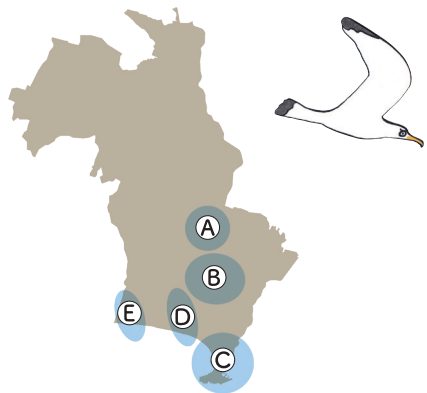
かやまこうえん

茅山公園（善行坂 1-4694）

掲載作品データ ※作者、所在地は掲載ページをご覧ください。

作品名	サイズ（cm）	竣工年	材質	掲載ページ
弁財天と世界女性群像	1 体につき約H180×W60×D36	1964	ブロンズ	5
孔雀彫刻（吉祥永駐）	H190×W420×D195	2002	ブロンズ	6
石塔	H300×W45×D45（向かって右）	2003	黒御影石ほか	6
	H270×W45×D45（向かって左）			6
エドワード・S・モース記念碑	H48×W148（レリーフ部分）	1985	ブロンズ	6
海の詩	H約200×W170×D65	2006	ブロンズ	7
雲の形	H41×W103×D48	1987	ブロンズ	7
片瀬こま	H25×直径 26	2009	ステンレス	8
大望の像	H121×W53×D36	1968	ブロンズ	8
平和の像	H約600×W175×D141	1965	ブロンズ	9
自由の翼	H240×W220×D140	1982	大理石	9
東京 2020 大会・セーリング競技開催記念モニュメント	H260×W240×D240	2020	テラコッタ	10
1964 年のオリンピック聖火台	H265×直径 150	1964	ブロンズ	10
日本ピーチバレー発祥の地記念碑	B（H50×W120×D60）、 E（H60×W150×D60）、 A（H140×W80×D140）、 C（H60×W90×D60）、 H（H40×W80×D100）	2006	御影石	11
皇太子殿下御成婚記念植樹のモニュメント	H182×直径 170	1959	モザイクタイル、御影石	11
五頭龍伝説より	H200×W360	1997	壁画	12
潮風のたより	H230×W345	1988	壁画	12
デミター（豊かな実りをもたらす女神）	H約500×直径 136	1990	ステンレス	13
引地川緑地のモニュメント	H95×W220×D50	不明	小松石	13
核兵器廃絶平和祈念像（平和の母子像）	H176×W176×D120	1995	大理石	15
貝	H43×W87×D48	1967	大理石	15
波	H71×W100×D70	1970	ブロンズ	15
名誉市民 片山哲先生	H89×W80×D50	1972	ブロンズ	16
翔	H200×W95×D57	1991-1992	ブロンズ	16
地	H73×W73×D58	1978	ブロンズ	17
空	H128×W56×D43	1979	ブロンズ	17
海	H77×W33.5×D28.5	1962	ブロンズ	17
待ちぼうけの石	H202×W117×D55	1979	御影石	18
まごころ	H180×W54×D47	1986	ブロンズ	18
円舞	H540×W365×D40	1997	鍛鉄	19
我が家のソクラテス	H35×W90×D47	2010	楠	19
愛と友情	H180×W200×D70	2007	御影石、大理石	19
めでたき富士	H340×W700	1983	陶板レリーフ	20
大気の日	H100×D50	1992	小松石	21
みぎわ	H150×W37×D30	1984	ブロンズ	21
平和の灯モニュメント	H180	2011	ステンレス、ブロンズ	22
平和モニュメント（鳩）	H210×W60×D140	1984	キャストアルミ	22
真心	H116×W40×D36	不明	ブロンズ	23
ぶどうを持つ少女	H102×W35×D25	不明	ブロンズ	23
弥勒寺太郎	H90×W35×D20	1991	ブロンズ	23
海行く物	H約600	1993	ステンレス	24
海を望むオーケアニデス	H119×W37×D45	1993	ブロンズ	24
サムジュモールの波	H約210×直径 45	1993	ステンレス	24
サムジュモールの樹	H172×W73×D73	1993	ステンレス	24
サムジュモールの太陽	H125×直径 125	1993	ステンレス	24
海の形	H約600	1993	ステンレス	24
藤沢聖苑のモニュメント	H約 600×W130×D130	1991	石	25
QUIESCENT ELAN	H180×W70×D55	1990	ステンレス	25

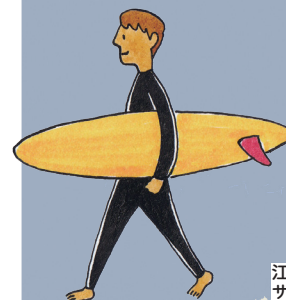
作品名	サイズ（cm）	竣工年	材質	掲載ページ
サザンセイル		不明		26
ブロンズ像（2人の子ども）	（左）H65×W30×D25、（右）H50×W34×D34	不明	ブロンズ	26
海鳴りの樹	H77×W35×D16	1991	ブロンズ	27
渚	H98×W25×D18	1998	ブロンズ	27
ブロンズのモニュメント	H213×W 138×D 84	不明	ブロンズ	27
湘南讃歌	H250×W1150	1980	陶板レリーフ	28-29
湘南台アートスクエアの壁画 -Viva Fujisawa-	H 240×W 2500	2022	アクリル板	28-29
江ノ電の駅アート		2023	ペンキ	30
シャッブラウスの娘	H165×W85×D30	1983	ブロンズ	33
友情	H160×W100×D55	1973	ブロンズ	33
大黒橋のモニュメント	H310×W100×D100	不明	ステンレス	34
大庭台墓園のブロンズ像	向かって左H90×W35×D20、 右H55×W50×D30	不明	ブロンズ	34
春の詩	建物に向かって左H188×W73×D63、 向かって右H188×W75×D55	1995	ブロンズ	35
水・浮遊	H 440×W 440×D 140	1996	ステンレス、白・黒御影石	35
二番橋公園の彫刻（3人の女性像）	向かって左からH195、H200、H195	1985	ブロンズ	36
二番橋公園の彫刻（水瓶を抱えた女性像）	H200	1985	ブロンズ	36
二番橋公園の彫刻（2人の子ども）	座っている子H50×W34×D34、 肘をついている子H42×W33×D27	1985	ブロンズ	36
				36
自然	H64×W91×D47	1995	大理石	37
市制 50 周年記念足型モニュメント	（タイル一枚あたり）30×30、（全体）2670×1830	1990	タイル	37
光る風	H192×W139×D30	不明	石、鉄	38
駆ける太陽と共に	H80×W130×D30	1984	大理石	38
空の表情	H179×W74×D48	不明	石	38
引地川親水公園 天神橋 欄干の彫刻	（左から設置順に中央まで）行司：H29×W27×D13、 立ち合い：H19×W33×D13、四つ相撲：H23.5×W25×D13、 押し相撲：H19×W33×D13、勝ち：H26×W20×D13、 負け：H18×W18×D13（欄干の中央から右へは、勝ち、 押し相撲、四つ相撲、立ち合い、行司の順で前出に同じ）	1988	ブロンズ	40
石川岡田橋 欄干の彫刻	H130×W110×D36	2000	アルミ含有錆物	40
道標	H54×W30×D18	1987	ブロンズ	41
日の出橋 欄干の彫刻	1 羽につき約H24×W24×D12	1985	ブロンズ	41
にっぽんの詩	H300×W600	1995	陶板レリーフ	43
湘南台公園のハニワたち	武人：H146×W50×D50、巫女：H102×W43×D43、 船：H150×W630×D110、馬型：H160×W155×D55、 動物：H63×直径 20、男子：H110×W57×D22、 女子：H110×W42×D32、家：H280×W200×D194	不明	コンクリート（複製品）	44
子どもとウサギ	H66×W67×D31	1993	ブロンズ	45
くつろぎ	H70×W75×D33	2005	ブロンズ	45
花のかんむり	H88×W73×D36	1995	ブロンズ	45
曇さがり	H71×W87×D65	1995	ブロンズ	45
姉弟	H86×W77×D50	1995	ブロンズ	45
ささぶね	H88×W55×D57	1995	ブロンズ	45
水あそび	H120×W82×D50	1995	ブロンズ	45
しゃぼん玉	H100×W50×D68	1995	ブロンズ	45
ハーメルン	H118×W63×D47	不明	テラコッタ	45
ハーメルン	H118×W63×D47	不明	テラコッタ	45
風のきらめき	H650×W 200×D100	1999	ステンレス、御影石	46
コンポジション 交通と街	H240	1999	ステンレス	47
原谷公園のモニュメント	H130×W134×D50	不明	石	48
茅山公園のモニュメント	H185×W88×D66（台座を除く）	1989	御影石	48

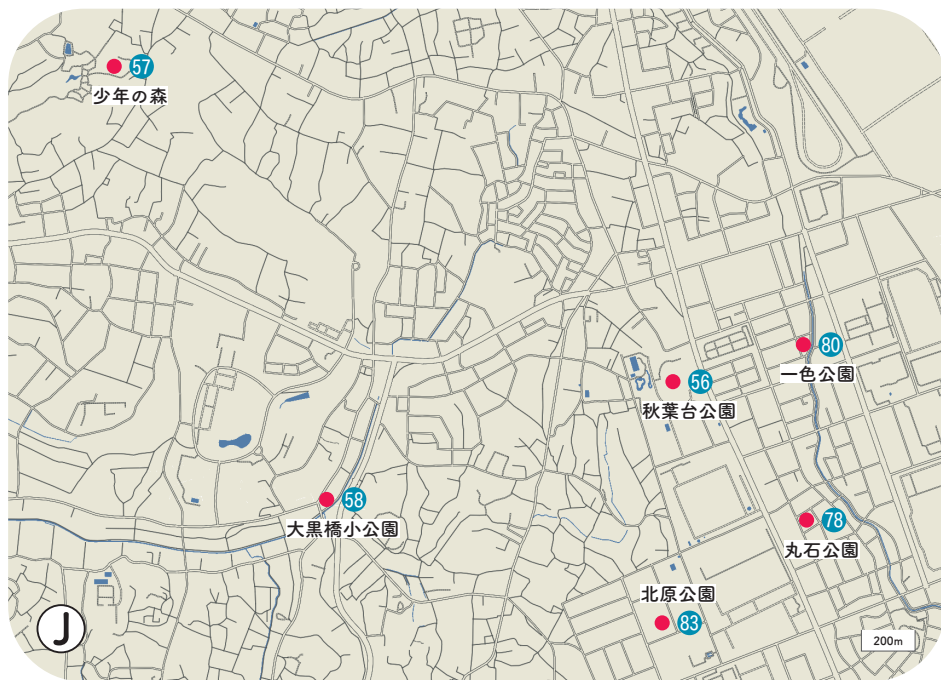
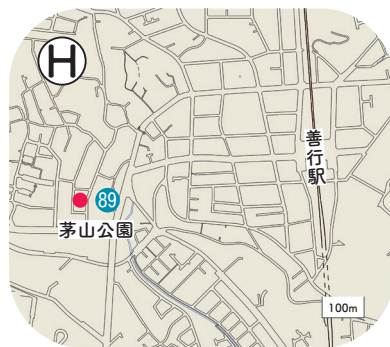
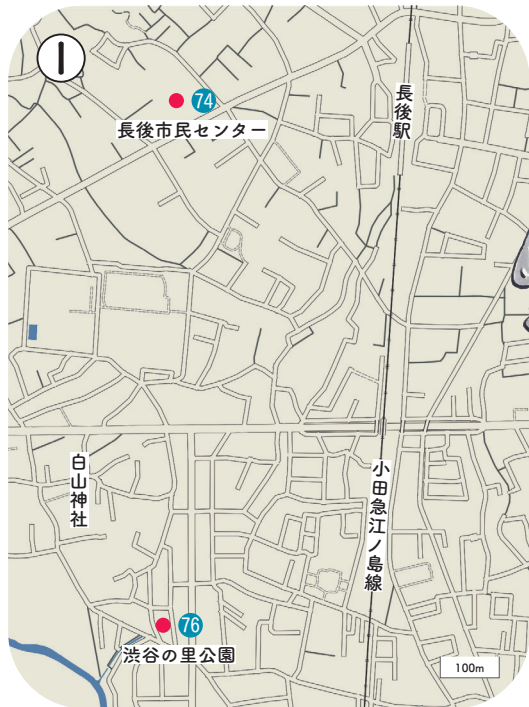


1111

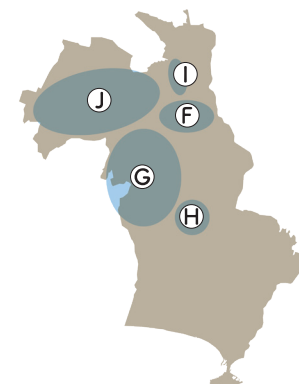


MAP





MAP





あとがき

2020年に冊子「あるいて。みつけて。ふじさわパブリックアート散歩」を刊行しました。それ以来、「近所にあった作品に初めて気が付いた」「掲載している作品をすべて訪ね歩いた」などさまざまな感想をお聞きし、まちのパブリックアートに関心を持ってくださる方が増えたことを実感しています。市内には2000年までに設置された作品が多く、設置から60年を超えるものもあります。時代は昭和から平成、令和へと移り、まちの様相も変化した中で、パブリックアートはまるで時が止まったかのようです。

土地の整備計画の一環として、またはシンボルとしてなど、いずれのパブリックアートにも設置の理由や作者の思いがあります。それらをふまえた上で、地域で暮らす方々と今後どう共にあるべきか—どの作品をどう保全していけばよいか、新しい作品を取り入れるか、など—この冊子を手にとっていただいたみなさんと一緒に考えていけたらと思います。



協力（敬称略・五十音順）

参考文献

池田徹

『孤独なる彫刻 造形への道標』

乙部遊

著者／柳原義達、発行／アルテヴァン、2020年

勝山滋

『「平和のアート（彫刻）戦争の記憶」写真集（核のない未来へ）』

熊谷喜美子

著者／藤田親龍、発行／本の泉社、2011年

黒川弘毅

『屋外彫刻メンテナンスハンドブック』

佐々木実

監修／田中修二、発行／大分大学田中修二研究室、2021年

佐藤綾香

篠原聡

編集・執筆 鎌田さつき

高橋裕二

デザイン 宮古美智代 藤木敦子

野崎良太

撮影 熊野淳司

平野杏子

イラスト 横山寛多

廣田雷風

印刷 株式会社さんこうどう

伊勢屋

発行日 2025年4月

江ノ島電鉄株式会社

発行 藤沢市アーツスペース

株式会社湘南なぎさパーク

〒251-0041 神奈川県藤沢市辻堂神台2-2-2

せきがはら人間村生活美術館

ココテラス湘南6階

株式会社東急ストア

TEL 0466-30-1816 FAX 0466-30-1817

東京藝術大学

©2025 Fujisawa City Art Space All rights reserved.

有限会社ブロンズスタジオ

横浜市営地下鉄湘南台駅

フォトレジット

株式会社リビエラリゾート

表紙、pp.4-30、pp.32-36、p.37の©、p.38、pp.40-48 ©Junji Kumano

（江の島ヨットハーバー）

ここに記載のないものは全て©藤沢市アーツスペース